



埼玉県医師会誌



就任挨拶

埼玉県医師会

理事

田原

泰久、

齋藤

卓、

鈴木

仁志

5

2025
May

Vol.902

フォトサロン

オックスフォードの朝	深谷寄居医師会	小 暮 太 郎
日本平の丘の上からの眺望（静岡）	深谷寄居医師会	五十嵐 勇 人
ポピー畑（東秩父村）	深谷寄居医師会	五十嵐 勇 人
牛島の藤（春日部市 藤花園）	さいたま市与野医師会	森 田 英 幹
閑宿城、春の雪	北葛北部医師会	石 塚 一 郎
日本庭園のつつじと舟屋と欽楓亭：昭和記念公園（東京都立川市）	埼玉医科大学医師会	片 山 茂 裕
「潮音庭」 建仁寺	吉川松伏医師会	三 宅 政 房
キジと「にらめっこ」	行田市医師会	河 本 英 敏

就任挨拶

埼玉県医師会理事就任ご挨拶	埼玉県医師会理事	田 原 泰 久 … 1
埼玉県医師会理事就任のご挨拶	埼玉県医師会理事	齋 藤 卓 … 2
理事就任挨拶	埼玉県医師会理事	鈴 木 仁 志 … 4

報告 I

第181回埼玉県医師会臨時代議員会	埼玉県医師会総務担当常任理事	桃 木 茂 … 6
令和6年度労働衛生調査 勤務医に対する働き方改革に関するアンケート調査 ～年代分析～		
	埼玉県医師会産業保健委員会	… 40

談話室

3月去る	春日部市医師会	木 村 理 … 54
保護犬「ひぐれ」の一生	深谷寄居医師会	定 森 真 理 … 58
クイズは楽し！ Ver.120	深谷寄居医師会	緒 方 伸 男 … 63
ミドルネームはジム	深谷寄居医師会	小 暮 太 郎 … 64
果報な村医者	深谷寄居医師会	小 暮 太 郎 … 67

詩歌の森

短歌	北葛北部医師会	山 根 克 己 … 73
----	---------	--------------

臨床メモ

急性膵炎症例から 自己免疫性膵炎（AIP）に思いを馳せる		
医療法人財団全仁会 東都春日部病院（春日部市医師会）病院長	木 村 理 … 74	
禁煙先進県への提言「埼玉県に無煙世代を育てよう」		
行田中央総合病院（行田市医師会）院長	川 島 治 … 81	
慢性腎臓病（Chronic kidney disease：CKD）管理、透析、腎移植について		
防衛医科大学校 内科学（腎臓・内分泌代謝）（所沢市医師会）	坂 巻 裕 介 … 88	

お知らせ

患者さんのための3つの宣言	埼玉県、埼玉県医師会 … 92
日本医師会員向け キャッシュレスサービス	日本医師会 ORCA 管理機構 … 94
MAMIS 日本医師会会員情報システム	日本医師会 会員情報室 … 96
	学 術 担 当 … 98

日医講座開催案内

会議記録

第11回理事会、第43回常任理事会、第44回常任理事会、 第45回常任理事会、第11回郡市医師会会長会議	総 務 担 当 … 99
---	--------------

会員の動き

郡市医師会別会員統計表、訃報、日誌	総 務 担 当 … 109
-------------------	---------------

医師会誌投稿規定

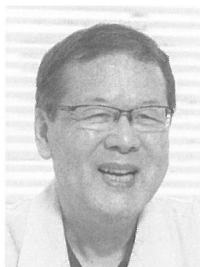
保険診療についてのQ&A

お気軽に会誌へのご感想・ご意見をお寄せ下さい

編集後記

会誌編集委員会委員	田 原 泰 久 … 192
-----------	---------------

3月去る

春日部市医師会 木村 ^{わたる}理

1. プロローグ

2025年3月14日（金曜日）の日の午前の外来は新患と再診患者であふれており、以前の入院の患者さんで他の医師の受け持ちだった褥瘡悪化の方は、看護師

が気を利かせて他の外科医に回してくれたので、私の外来はなんとか通常のように13時頃までにめどを立てることができた。この方の褥瘡については「消毒、ネグミンシュガー処置」、処方ネグミンシュガー100g、レボフロキサシン500mg/日であった。軽く昼食のキーマカレーを職員食堂で食べた後、病室の患者さんの指示確認に行き、病院長室で昨晚遅く自宅で行った2論文の作成状況を確認して、とりあえず病院長室のPC（パソコン）にダウンロードしておいた。

2. 防災訓練

本年は様々な都合に鑑み、3月14日に防災訓練を行うこととした。14年前の3月11日に東日本大震災が起これ、ここ数日ニュースでも取り挙げられていたので、タイミングとしては良かった。

14時から能美防災の担当職員が来院して打ち合わせをし、14時10分及び25分には防災訓練の全館放送が入った。警報が鳴ったりするが、あくまでも訓練であることを患者さんに告げる放送である。

14時30分から本番の訓練が始まった。発災の放送とともに、各自ヘルメットをかぶり、机

の下に頭を潜らせて落下物から守る行動をとる（シェイクアウト行動（注））。1分それを行ったのち、私は自室から大会議室に走り、そこに集まってきた看護部長・事務長、災害担当職員を前に、14時33分に災害対策本部を立ち上げる宣言をした。そのことが全館放送で流れると、数分後から各病棟や部署から、患者さん・職員の人数と異常がないこと、機器や壁などの破損がないことの報告が小さな紙のメモと共に、次々に駆けつけた担当職員たちによって告げられた。災害対策本部長である私はそれを受け取り、大声で確認し、それを担当事務員に白板に筆記させた。14時40分に1階厨房で火災が起こった想定で、そこに必要な職員が全館から集まり、火消しを試みた。しかし結局初期消火がうまくいかなかったという連絡が災害対策本部に入り、本部長（私）は全館に避難命令を宣言した。これにより事務長及び看護部長はその事実をPHSで各部署に連絡したのち、対策本部も建物の外に避難した。関連した約80人全員が病院正面玄関の外に避難を終え、頭を打ったり、火傷をした想定患者役の方たちも外に集まってきた。訓練者は皆、役割の書いてあるビブスを着用していたので、訓練をしているとすぐわかる（写真1）。



写真1. 正面玄関への避難誘導

さんさんと輝く明るい陽の下で全員の無事と集合を確認し、取りまとめられた患者さん・職員の集計が発表したところで、防災訓練の第一部は終了した。ついで水消火器の放水訓練である。中身を消火薬でなく通常の水に変えた訓練用の消火器を6本用意し、庭で、放水の実践を参加者各自が行った（写真2）。6列が同時に行う、まず消火器の栓を引っぱって抜き、ついでホースをはずして対象に向ける。手前のコックを握り絞ると水が出る、という仕組みである。要領がわかったら次の6人に交代する。それを何組か行って、希望者や未経験者がいなくなったところで終了である。



写真2. 水消火器で消火器の使用方法確認

その後院内の外来のエレベーター前に皆が集めた（写真3）。講評が能美防災の担当者からあり、皆よくできていたとのことであった。最後に災害対策本部長である私が、「本日は良く行き届いた訓練ができました。本当に被災しても本日と同じように行動してください。自分の命を守ることが最も大切であることを十分に念頭に入れて行動してください。大変ありがとうございました」という言葉で締め、防災訓練は終了した。



写真3. 講評

3. 埼玉県医師会誌の校正

埼玉県医師会誌の安井さんから、4月号掲載予定の校正刷りがメールで届いていたので、それに対応した。すでに2回目の校正だったので直さないことも考えたが、人の名前など、根本的なところが間違っていたので、それを含め、より読みやすい文章に修正していると、16時前に4階療養病棟から受け持ち患者さんの状態がやや悪いので診て対応してくれ、とのことであった。数日前から黄疸が出てきているような肌の黄色味がある、半年前に肝機能障害になったことがある、2日前に熱を出したが今はクーリングで下がっている。などの所見が看護師たちからの報告であった。療養病棟なので、週に2回程度の回診はしていたが、前回行ったときはそのようなことはなかった。ちらっと金曜日の16時という“つまった”時間ではなく、昨日だとか、もう少し十分に時間があるときに知らせてくれたら良かったのに、という思いが脳をかすめ、連絡をよこした看護師が超ベテラン優秀な看護師であることにちょっとした違和感を覚えたが、今の仕事が一段落したら、早めに何うことを述べた。校正を手っ取り早く終了し、療養病棟に駆けつけた。

4. 4階療養病棟

4階療養病棟は54床からなり、医療的にはあまり手のかからない患者さんが入っている。当院の療養病棟の特徴としては、終身お世話をさせていただき入院の期限はない、看護助手さんの割合が高く、入浴の介助などいろいろなお世話を回す手（労力）が比較的多い、などがある。

今回の患者さんについては半年前に高カロリー輸液が原因で肝機能障害になっていたので、通常の薄い点滴にしてあった。中心静脈カテーテルは入っている。診察に行ってみると黄疸ははっきりしない、眼炎で眼軟膏がたっぷりついていて、眼球結膜の色調の診察はできない状態であった。口腔ケアの時に軽い出血傾向がある感じがするとの看護師からの報告も受けた。

療養病棟の医療費支払いはいわゆる“丸め”で、検査や治療をいくら行っても病院の持ち出しになる。したがって最低限の検査を行うか、侵襲的な検査や治療をしっかりと行う場合には、ご家族に知らせて一般病棟に移してから行うのを原則にしていた。今回は、葉酸・ビタミンB12の補充や微量元素の補充を行い、それら及び一般血液検査（肝機能、電解質、血算など）を週明けに行うことにした。それでもビタミンB12や微量元素の点滴には、それぞれの注射器で吸い取り、別々の生理食塩水100mlに注入して使うなど、薬剤師にも病棟に来ていただき、意見を聞いていたのでそこそこ時間がかかり17時にもなろうとしていた。

一連の診療作業が終わったとき、電子カルテに向かって一息ついている私のところに4階療養病棟の師長が来て、「私は今日で終わりです、4月からは地元の病院に帰ります」とのことであった。疲労してばっっとしていた私の体と頭に軽いショックが加わり、めまいがした。一瞬、目の前が暗くなり、何が起こったかわからな

かった。東都春日部病院に6年前に勤務し始めてからこの師長とはこれまで、ずっと一緒にやってきて、私自身は大変助けられたと思っている。心から感謝の意を表した。これからも頑張ってそれぞれの勤務先で患者さんを守ってこうといい合い、左肘をぶつけ合わせて励ましあった。ナースステーションにいた看護師たちを促し、「みんなで師長に感謝の拍手をしよう」と呼びかけて、病室にあまり響かないような弱めの拍手をすることにした。拍手は鳴り止まなかった。いつまでも鳴り止まなかった。気がついてみると、ナースステーションには日勤、準夜勤の看護師が全員集まっており、またナースステーションの外の廊下でも看護助手さんたちが全員集まって惜しみのない拍手を続けていたのだ！！！！ 師長に対する感謝の拍手が鳴り響き続けた！（写真はない！状況を皆さんに脳裏に思い浮かべてほしい、その場にいた方々はその光景を脳裏に焼き付けておいてほしい）

私は、金曜日の夕刻、この時間に呼ばれて感じた軽い違和感を、ここで初めて理解した。超ベテランで気の利く優秀な看護師は、この状況を演出したのではないか、この日17時でこの病院を終わる看護師長に、病院長を加えた病棟全員で感謝の気持ちを送ったかったのではないか……。もし本当にそうだったら、私はベテラン看護師の思い描いたとおりの動きをし、その目論見（もくろみ）は最大限に成功したのだ！！！！

5. エピローグ「3月去る」

翌日の3月15日（土曜日）は自治医大の佐田尚宏教授、北山丈二教授の退任祝賀会が宇都宮で行われるが、私は今回は遠慮しておいた。3月は花粉症で体調がすぐれなくなることが多いことは毎年恒例のことだし、実際、ここ2～3

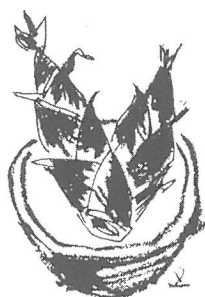
日は通常の風邪も混ざって、熱こそないものの咳・痰、鼻声・がらがら声で、ひどいものであった。昨年、栃木宇都宮には自治医大関係で、佐田尚宏会長の日本痔臓学会（7月）および日本臨床外科学会（11月）、山口博紀外科主任教授就任式（10月）などけっこう頻繁に顔を出し、祝辞も述べる機会もあったのだ。山口主任教授・祝賀会実行委員長には、佐田教授と北山教授に長年の御功績に対する感謝と敬意をお伝えいただき、自治医大のご発展を祈るメールを送らせていただいた。山口教授からは、「木村先生の優しいお気持ちをお伝えいたします」とのありがたいお返事をいただいた。

1月行く（または“1月往ぬる”）、2月逃げる、3月去る、という。いずれの月も慌ただしくあっ

という間に過ぎ去っていくことを表したものだが、「3月去る」はまた、人が去り、人と人との別れがあることという特別な意味も含まれているのではないかと、勝手読みをし、悦に入っている。

新たな場所でも、場所は離れても、それぞれの人が毎日真摯に医療に取り組んでいこう、皆がそうできることを信じて止まない。

注：シェイクアウト行動とは、安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」で、地震発生時自分の身を守るための行動をいう。災害時に最も重要なことは「わが身を守る」ことである。



桜の時期が終了し、木々の枝先には新芽が芽吹くようになり、若葉の緑が目立つ季節となって参りました。昨年より本誌の編集委員となり、初の編集後記となります。諸先輩方のような後味の良い後記を書けませんがよろしく願いたします。

毎年、自然災害に見舞われる全世界ですが今年はアメリカのロサンゼルス、岩手県大船渡市、岡山県岡山市、愛媛県今治市、宮崎県宮崎市などで山火事が発生しております。ロサンゼルスは自然発火の可能性が高いですが、日本の各地の出火原因は焚火・野焼き・ゴミ焼きの不始末などや、人為的要因で放火の可能性を指摘する専門家もいるようです。どこの地域でも甚大な被害がもたらされましたが、大船渡市は2011年の東日本大震災では地震と津波により被害を受け、今回の山火事によって新居が全焼してしまう二重被災に遭われるという厳しい状況に遭われている方も多々おられるようです。毎年、自然の力の大きさをまざまざと感じさせております。被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。人間による自然環境の破壊がこれらのことを引き起こしている一因と考えるのは私だけではないでしょう。

しかし、悪いニュースばかりではありません。昨年MLB（アメリカプロ野球）で太谷翔平・山本由伸選手が所属するLos Angeles Dodgersが優勝したことは記憶に新しいところです。そのチームに日本で完全試合を記録した、佐々木朗希選手も加わり、史上最強と言われるチームが、今永昇太・鈴木誠也選手が所属するChicago Cubsと日本の東京ドームで3月18日・19日と開幕二連戦を行いました。初戦はDodgersが山本投手、Cubsが今永投手の日本人投手の先発で開始され、太谷選手はもちろん1番指名打者で先発出場し2安打の活躍、鈴木選手も2番指名打者で先発出場しましたが残念ながら無安打で4対1でDodgersが先勝し、山本投手が勝利投手となりました。第二戦はDodgersは佐々木投手が先発し、太谷選手の今シーズン初本塁打もあり6対3でDodgersが

連勝しました。先発した佐々木投手には勝敗はつかず、鈴木選手は本試合も無安打でした。また、サッカー日本代表チームがアジアの最終予選の全日程終了前に2026年のW杯の出場が決定いたしました。このように日本の選手・チームが国内・外で記憶・記録に残り、感動・興奮を与えてくれる良いニュースが届くことを日本全国民が願っているのではないのでしょうか。

さて、今号の表紙には定森先生の足利フラワーパークの藤を掲載させていただき、【フォトサロン】諸先生方からの季節の植物や風物詩など多彩な写真をいただきました。【理事就任挨拶】私と齋藤・鈴木先生から先生方の担当職務・これからの意気込みなどの就任の挨拶です。【報告Ⅰ】桃木常任理事から3月13日に開催された第181回臨時時代議員会の概要と県医師会産業保健委員会からの令和6年度労働衛生調査で「勤務医に対する働き方改革関するアンケート調査～年代分析～」のご報告です。【談話室】木村先生「三月去る」、定森先生「保護犬『ひぐれ』の一生」、緒方先生「クイズは楽し！Ver.120」、小暮先生「ミドルネームはジム」・「果報な村医者」いつもありがとうございます。【短歌の森】山根先生の「短歌」はまだ私には難しいです。【臨床メモ】木村先生、川島先生、坂巻先生から大変勉強になります。

(田原)

● 編集委員 ●

水谷	元雄	松山	眞記子	森野	一英
石井	暁	佐野	仁彦	加藤	雄一
森	庸祐	吉田	好志郎	岩崎	智彦
西	秀夫	田原	泰久		

【表紙写真説明】

足利フラワーパークの藤（ライトアップ）

満開となった4月最終木曜日。閉園は午後9時、平日夜の7時半頃に行くと、皆さんが帰る時間、センター駐車場まで入れて、激込み回避できます。

深谷寄居医師会 定森 真理

Vol. 902

MAY, 2025

定価500円

発行：令和7年5月10日
 発行人：一般社団法人 埼玉県医師会
 会長 金井 忠男
 編集人：一般社団法人 埼玉県医師会
 常任理事 松山眞記子
 発行所：一般社団法人 埼玉県医師会
 〒330-0062
 さいたま市浦和区仲町3丁目5番1号
 電話 048-824-2611（代表）
 印刷所：誠美堂印刷株式会社
 〒338-0007
 さいたま市中央区円弥6-3-3
 電話 048-855-5321